



# いづみ

## No.77

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

### 自作自選 47



《沖縄の記憶～海の声～》

水口 司

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 47

### 作者の言葉

平和をテーマにした「沖縄の記憶」シリーズの14作品目です。ここ数年はコンクリートブロックという素材（彫っていると穴が突然現れる意外性と琉球石灰岩やガマや隠れ家などを想起させる多様なイメージ）の可能性を引き出すことに試行錯誤しています。第75回全道展に出品した作品です。（水口 司 全道展会員 北斗市在住）

タイトル：沖縄の記憶～海の声～  
制作年：2021年  
素材：コンクリートブロック  
サイズ：H182×W93×D124cm  
設置場所：作家蔵

### 連載

## 宮の森の四季 47

本郷新記念札幌彫刻美術館

「彫刻美術館と宮の森の生き物たちと」 業務係 佐藤 良子

「何か？」と言わんばかりにこちらを少し見て、急ぐこともなく立ち去るキタキツネ。数回目に出合ったときには私も彼女と同じ振る舞いで「あなたなんて何も珍しくないわよ」と心の中で言ったのでした。

札幌彫刻美術館に勤めて半年が経ちましたが、通勤時や勤務中にもいろいろな生き物に出合うのが楽しみの一つになりました。いつかのように車の前をエゾリスが横切ってももう動じません。美術館の庭にある白樺の木は鳥たちに大人気で、アカゲラが来てコンコンと木をつついて羽ばたくまで私は数分の休憩をいただくと一層業務に精が出るのです。

しかし、白樺のひとつは枯れてしまったのでしょうか。春になっても新芽が出て来ませんでした。倒れる前に切ってしまわないとなど、職員で話していましたが、ある日シジュウカラがその木の割れたすき間にせっせと動物の毛やら草を運んでいるではありませんか。10日も経つとピーピーとか弱い鳴き声が聞こえてきました。気が付いたときにはいつの間にか巣立ちを終えて、同時にその白樺も最後の役目を終えたのだなと思いました。

街に鹿や熊の目撃情報が出始めた頃には、出勤時に三頭の小鹿に出会いました。スマホのカメラを向けるとあのキツネのようにはいかず、彼らは足早に草むらに消えて行きました。街に下りて行きませぬように。

頻繁に館の換気を行う昨今ですが、今期初めて見たトンボが展示室に迷い込んでしまいました。そおっとつかまえて庭に放すと遠くに行くでもなく、芝生の上を旋回すると「わだつみの声」像にとまり、しばらく休んでまた飛んでいきました。



## 北海道と私を結ぶもの

彫刻家、古典彫刻技法研究家 松本 隆

私が北海道にはじめて来たのは1992年、北見の彫刻家である小川研さんが企画した野外彫刻プロジェクト「プレ・シンポジウム in 北見—グループ M.A.U.」に参加した時のことでした。この時に現地で制作した煉瓦による彫刻《対話》は29年経った現在も北見市の朝日町東部緑道に立っています。数年後に再び北見を訪ね、その後知床、野付半島、厚岸などを周遊しました。これらの風景はいまだに脳裏に焼き付いています。

それから時は流れ、私は彫刻家のほか古典彫刻技法の研究者としても活動の幅を広げていました。2017年5月に、札幌彫刻美術館友の会の主催で行われた文化講演会「古代ギリシアのブロンズ彫刻」（北海道立近代美術館）の発表のため、私は20年ぶりに北海道を訪れることになりました。その時から橋本信夫先生をはじめ、友の会の方々との交流が始まりました。

当時私は、古代ギリシアのブロンズのほかに進めていた、ルネサンスのテラコッタ彫刻の研究で、大きな壁に遭遇していました。その一つが、釉薬の研究に不可欠な「ある材料」の入手でした。札幌で出会った彫刻家の唐牛幸史さんに、その相談をさせていただきました。そのことがきっかけとなり友の会の方々のご協力を得て、17年末に

余市の醸造所（Occi Gabiさん）から、大量の試料を頂けることにつながりました。18年5月には、本郷新記念札幌彫刻美術館で、文化講演会「ルネサンス期フィレンツェのテラコッタ彫刻」を開催していただき、それまでの研究の一部を披露させていただきました。

このあと研究は、美術工芸振興佐藤基金による研究助成（研究テーマ「イタリア・ルネサンスの陶芸技法研究：ピッコルパッソ『陶芸三書』における施釉レシピの再構成」）を得てイタリアでの調査、試料の配合、科学分析などの作業に入りました。研究には途方もない作業量が必要で、成果を出すまでに非常に長い時間を要します。ルネサンスの古典彫刻技法の中でも「秘法」と呼ばれる、ロツビア工房の技術解明については、この先さらに何十年もかかる可能性があるでしょう。

20年末、再び試料の提供を受け、唐牛さんの手厚いご協力により、留寿都にあるアトリエ（旧黒田小学校）に保管させていただきました。今年7月にその試料を加工する作業をしにアトリエを訪れました。研究は少しずつですが堅実に進展しています。私の無茶を受け止めてくれる北海道の関係者の方々に、あらためて感謝したく思います。

## 地域の文化芸術を守る小さな美術館

洞爺湖美術館 学芸員

山本 みどり



日々変化する景色と共にアートを味わう施設。洞爺湖美術館は洞爺湖温泉の対岸、湖の北側に位置する小さな美術館です。旧虻田町と旧洞爺村の合併2年後の2008年に開館しました。旧洞爺村時代の庁舎だった木造2階建ての建物を改修し、北海道を代表する彫刻家・砂澤ビッキの彫刻と絵画、「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ」(1993～2007年、現在は休止中)の入賞作品、写真家・並河万里が撮影した美しい洞爺湖の姿、そして日本の近・現代文学の初版本や限定本をコレクション、展示しています。

当館では冬季(12月～3月)を除く8ヵ月の開館中、地域の方々を中心にアートに触れる機会を創出するため、年3回の特別展を開き、ワークショップや演奏会、そして講演会など小さい美術館ながら様々な取り組みを行っています。これらの事業は過去6年間(2013～18年)に、指定管理団体として当館を運営していた洞爺湖美術館友の会による取り組みを踏襲しています。友の会の努力を引き継ぐ形で2019年から再び町直営の運営となったのをきっかけに、自分がこの施設の運営に携わっています。学芸員が一人しかいないこの施設では、企画運營業務はもちろん、施設管理に係る業務全てに学芸員が携わる必要があります。

事業の業務としては、年間の事業策定、スケジュール調整や関係者との打合せなどの外部との調整、事業に必要な予算管理等の内部の調整があります。また、通常、外部に発注する特別展のチラシやポ

スターのデザイン制作も、予算に限りがあるため当館では学芸員が行っています。多くの人に発信するために必要なウェブサイト運営、SNSでの発信、町内の方に向けた毎月の町内広報回覧物の制作も大事な取り組みとなっています。

施設管理としては、美術館としてお客様を迎えるための環境整備と、作品を守るための保存管理に必要な環境づくりの大きく2つの取り組みが挙げられます。春の花壇への花植えから、その後の水やり、除草作業は、夏の来館者の多くなる繁忙期にかけて必要不可欠な作業となるため、悪戦苦闘する日々が続きます。また、美術館として建てられていない築70年近い古い木造建築の建物での作品の保存管理は、年々厳しくなっており、この対応にも頭を悩ませる日々が続いています。

学芸員はたった一人しかいませんが、友の会には事業の一部としてミュージアムショップの運営や事業へサポートをいただいています。さらに、町の職員をはじめ、近隣の住民の方にもさまざまな場面でサポートをいただいています。

町営が再開されて3年目。しかし、その半分以上は新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館や感染症対策など新たな課題に対峙する日々。旧洞爺村時代から続く文化芸術を愛する地域の小さな美術館は、既存の施設にはない魅力と可能性をいかにして多くの人に知ってもらえるか、試行錯誤が続いています。

## 野外彫刻ボランティアの連帯を期待

### 「北海道デジタル彫刻美術館」立ち上げを機に

友の会会長 橋本 信夫

今春、念願だった全道の野外彫刻をウェブ上で検索できる彫刻地図コンテンツ「北海道デジタル彫刻美術館」の立ち上げが実現した。いわば「バーチャル美術館」ともいべきもので、道内ばかりでなく本州方面からも続々と問い合わせが寄せられ、これが機縁で各地の彫刻家、美術ファン、文化団体との交流が広がる契機ともなっている。

これまでも赤平市、美唄市、夕張市などの彫刻ファンや清掃グループなどと連携しながら、地方の野外彫刻の基礎データ収集、清掃・補修方法について現地実習や協議を重ねてきた。今回のデジタル彫刻美術館の開設により新たに、旭川市の旭川彫刻サポート隊、稚内市の朔北美術協会、北見市のオホーツク文化協会などとのインターネットを介しての情報提供、交流などが動き出した。

一般に野外彫刻はそれぞれ地域のランドマーク的な大事な存在であるにも関わらず、本道の場合は野外彫刻のデータをまとめた「戸籍台帳」がなく、作品の汚染、破損の実態、清掃・補修の方法、管理責任の在り方はほとんど把握されていない。結果として各地の多種多様な作品は悲惨な状態に置かれ、打開策は未だに講じられていない状態である。

こうしたことから私たちの会は30年ほど前から全道各地で情報収集に努め、これまでに3500点余の野外彫刻のデータベース(DB)を作成した。さらに、これらの資料を基に全道179市町村ごとに彫刻の分布や基礎情報を検索できるシステムを作り上げ、「北海道デジタル彫刻美術館」として友の会のホームページにリンクさせて公開した。

野外彫刻の宿命として、自然環境に置かれた瞬間から様々な汚染にさらされ、さらには経年劣化も加わって芸術作品としての風格も次第に薄れがちとなる。しかも、多くの場合、設置者に「頑丈な文化財」の思い込みが強く、その後はほとんど放置したままとなる。こうした状況は世界共通としても彫刻ファンにとっては見逃せない問題である。しかも、彫刻の清掃、保全活動の担い手はほとんどその地の草の根ボランティアと相場が決まっている。

北海道デジタル彫刻美術館を介して生まれた各地のボランティア団体、市民と彫刻の資料や情報を持ち寄り、清掃や保全体験を語り合い、啓発し合いながらそれぞれの地区住民の責務として野外彫刻を守り抜き、長く後世に伝えるべく全道を挙げて取り組みが広がるよう願っている。

コロナ禍で控えめ  
2021年度彫刻清掃計画  
五輪で大通公園使えず

コロナ禍で公設施設の使用制限など活動が停滞する中、2021年度の彫刻清掃スケジュールがまとまった。

例年、彫刻清掃活動の中心となる大通公園が東京五輪2020のマラソン、競歩の会場となり、事前準備のため早くから閉鎖され、計画に大幅な制約を受けた。このため今年度は別表の通り5回の清掃予定となった。

ほとんどが9月中の終了見込みだが、昨年に続き大通公園ロータリークラブと共催の清掃、また、北大構内にある彫刻の清掃活動など新たな企画も加えられた。

8月21日	中島公園
《母と子の像》	
9月5日	大通西10
《有島記念碑》《漁民の像》など。RC共催 (中止)	
9月22日	彫刻美術館
美術館と共催	
10月10日	大通西3
《湖風》《泉像》《花の母子像》 RCと共催	
未定	北大構内
彫刻鑑賞と清掃	

今年初 中島公園で彫刻清掃  
新保護材「アイゾール EX」塗布

コロナ禍やマラソン競技などで活動が大幅に制限される中、8月21日、今季初の彫刻清掃が中島公園で行われた。

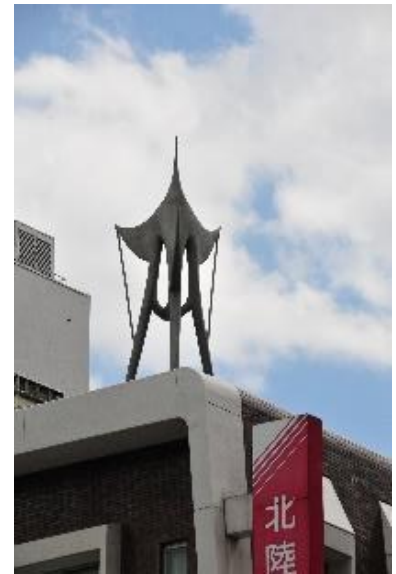


彫刻に新しい保護材塗布

例年行う山内壮夫のコンクリート彫刻《母と子の像》《笛を吹く少女》など4体の水洗いを行った。その後、《母と子の像》の乾燥を待って、これまでの「パーマシールド」に代わって新たな表面保護材「アイゾール EX」で塗装した。水溶性で伸びが良く、まんべんなく塗ることができ、後日の報告では「彫刻の白さが増していた」と好評だった。

北陸銀行屋上の  
《鶴の舞》(山内壮夫作)  
店舗改築で行く先は？

札幌・大通公園に面した北陸銀行札幌支店の屋上にあった



北陸銀行屋上の《鶴の舞》

山内壮夫の彫刻《鶴の舞》が店舗改築工事で撤去され今後の行方が注目されている。

北陸銀行(札幌市中央区大通西2)は1966年建築の現店舗の改築に着手、この夏、旧店舗を解体、撤去した。このため同店舗屋上に設置されていた《鶴の舞》も姿を消した。同彫刻は66年の店舗竣工記念に設置されたものでアルミニウム製。

新しい店舗は今年11月着工予定で、13階建て、高さ60メートルの高層ビルとなる計画。

同行札幌支店によると《鶴の舞》は現在、建設事務所に保管中とのことだが、今後の処分は未定で、友の会は札幌市内での移転設置、保管を銀行側に強く要請したいとしている。

## ご協力ありがとうございます 活動資金募集に寄付相次ぐ

友の会が財政支援を目指して初めて行った活動資金カンパに多くの支援が寄せられた。

会の運営は会員の年会費(2000円)をもとに行われているが、近年は会員の減少などから厳しい財政状況が続いている。しかし、コロナ禍で日ごろの活動が大幅に制約される中、今春は念願の「北海道デジタル彫刻美術館」の立ち上げ、さらに雑誌「ケア」に連載した「さっぽろ野外彫刻マップ」の冊子化など意欲的な活動を目指している。また、札幌市内の野外彫刻の経年劣化に対処するための彫刻の清掃活動も継続しなければならず、運営資金確保が懸案となっていた。

このため、前号の会報「いずみ」発送時に募金の趣意書と振込用紙を同封、協力を訴えたところ、これまでに下記の方から総額10万8000円の基金が寄せられた。

### 支援金寄付者氏名

(敬称略、順不同)

片野 敬司(札幌)  
村田 勝征(札幌)  
樫山 剛志(北広島)  
篠宮 敏明(札幌)  
斎藤美年子(札幌)  
斎藤 澄子(札幌)

## 友の会「つぶやき」コーナー

### このごろ思うこと

一年遅れのオリンピック、パラリンピックが行われた。開催に否定的な意見が多い中ではあるが、アスリートの頑張りには感動を覚えた。

中で、障がいのある女子選手の言葉が強く印象に残っている。「私は障がい者に生まれてきて良かった!」。プラス思考という簡単な表現ではなく、多くの過程、そして深い思いがあることだろう。

吉田 千代

妻死去後も真駒内暮らし10年。エドウィン・ダン像から縁がひろがり、友の会と出合う。

酪農業界で24年勤務。リタイア後14年過ぎ。好きな彫刻を通して初めて客観的に酪農を眺められた。SDGs(持続可能な開発目標)時代となり、環境を貫ける酪農には可能性がある。今夏、わが酪農図解絵本が7年ぶりに増刷。理解を実感、感謝!

松岩 達

すっかり巣ごもり状態で1年半以上。

コロナがおさまったら、今はデジタル彫刻美術館で楽しんでいる洞爺湖の周りの彫刻を見に行こう。夜は温泉につかり、おいしい食事に花火見学を楽しもう。次の日には有島記念館に行ってみよう。考えるだけでも楽しい。

昨年、今年と中止になった彫刻美術館友の会主催のバス旅行も再開し、どこへでも自由に行ける、そんな日が早く来るといいなあ。

内田 幸子

退職後、趣味で彫刻の親類筋、陶芸の制作を始めて20年ほど。造形を故下澤土泡先生とそのお弟子さんに、絵付けを有田出身の高橋正先生に学びました。

お花の先生曰く「あなたの花器はお花と喧嘩し、活けにくい」と。その通りです。花器そのものを愛でていただくのは有難いのですが、それでは「花器」ではなく「壺」?

永喜多宗雄

**事務局日誌** ▼5月11日＝コロナ感染者急増で5月の役員会をいったん延期するも中止に決定▼30日＝橋本会長、高橋(淑)会員がFM 北海道に出演(6月6日に2回目)▼6月14日＝北方ジャーナル7月号が札幌駅前く牧歌の像>修復問題などを特集▼30日＝会報76号発送、6月役員会(北大学術交流会館)「さっぽろ彫刻美術マップ」の冊子化なども協議▼7月16日＝7月役員会(エルプラザ)彫刻清掃計画、札幌市との連携強化策など▼8月5日＝「さっぽろ彫刻美術マップ」冊子化検討会(渡辺淳一文学館)▼10日＝8月役員会中止決定。

**編集後記** ▼ふと新聞記者時代に勤務したオホーツク管内美幌町の彫刻を調べた。同町には本田明二さんの「碧空へ」がある。1987年、開町100年記念で町が制作を依頼し、翌88年に完成した▼87年、制作のため来町した本田さん取材した。現場に立つお元気そうな写真付き。しかし、翌年の除幕式には見えず、89年に逝去された。記事は簡単なもので、今思えばもっと深く取材しておけばと悔やんでいる。(大内)

**札幌彫刻美術館友の会**

会報「いづみ」 No.77

2021年10月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

**会報「いづみ」77号 目次**

自作自選47《沖縄の記憶～海の声～》	水口 司	表紙
宮の森の四季47「彫刻美術館と一」	佐藤良子	2
風見鶏「北海道と私を結ぶもの」	松本 隆	3
寄稿「地域の文化芸術を守る小さな美術館」	山本みどり	4
レポート「野外彫刻ボランティアの連帯を期待」	橋本信夫	5
友の会ニュース		6-7
2021年度彫刻清掃計画／中島公園で彫刻清掃／<鶴の舞>の行く先は？／寄付金ご協力ありがとう／つばやきコーナー		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

**本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定**

**本 館**

■第3回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念

「高橋喜代史展 言葉は橋をかける」 9月11日(土)～12月5日(日)

第3回本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した高橋喜代史(1974～)は、異なる領域の橋渡しをするべく現代美術を手掛ける北海道出身の美術家。書道と漫画を造形の源泉とし、記号化された文字や言葉の多様性をテーマの軸に据えた立体、平面、パフォーマンスの数々を紹介する。

■本郷新・全部展⑤

本郷新の言説 12月11日(土)～2022年4月10日(日)

本郷新は芸術論、作品論、風土論など数多くの文章を出版や手記を通じて遺している。それら言葉や思想をなぞって彫刻や絵画に立ち返り、言説や造形との関係を検証する。

**記念館**

■本郷新・全部展④

100の石膏像 ～2022年4月10日(日)

美術館所蔵の石膏像364点のうち、野外設置のための4級以上の大型の彫像から細やかな造形美に触れられる小像に至るまで100点を厳選して紹介。ブロンズ像の鋳造工程にあつて重要な役目を果たしながらもあまり語られることのない石膏原型像の魅力に迫る。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

**友の会ホームページ公開中です！ご覧ください**

<https://sapporo-chokoku.jp>